

COMPANY PROFILE

<https://www.stknet.co.jp/>

2024.07

安全・安心・信頼 そして未来へ
新生テクノス株式会社

安全・安心・信頼 そして未来へ

Company Message

沿革

当社のルーツを辿れば、太平洋戦争の戦災で疲弊した日本の鉄道の復興を目指して、外地の鉄道で活躍していた電気技術者が中心となって1947年(昭和22年)5月に設立した新生電業(株)まで遡ります。

戦災からの復興に始まり、高度経済成長に伴う鉄道輸送力の増強、官公庁や民間の電気設備工事への拡大等、社会の要請に応え続けた歴史の先に、国鉄改革に伴うJR各社の発足とその後の成長があった訳ですが、このことは新生電業(株)の事業展開の大きな転機となりました。やがて1996年(平成8年)4月、新生電業(株)はジェイアール東海電気工事(株)と合併し、新生テクノス(株)という新しい社名で再スタートを切ることとなりました。爾来当社は、JR東海グループの一員としてJR東海の電気設備の工事・保守を主体的に担うとともに、全国展開する電設会社として多岐に亘る工事を通じて、世の中に貢献してまいりました。

当社は社是を「安全最優先」と定め、安全を第一に考えて企業活動を続けてまいります。また、企業理念を「工事・保守を通じて、日本の大動脈と社会の発展に貢献する」とし、東海道新幹線をはじめとした既存鉄道の安全・安定輸送の確保のための工事・保守や日本の大動脈となる中央新幹線の建設等を進めていくとともに、全国の総合設備工事も積極的に行ってまいります。これからも、JR東海グループの一員として、当社の得意とする電気設備工事及び保守の業務を安全に遂行することにより、施主様、お客様からの安心、信頼を得てご負担にお応えするとともに、日本の社会全体の発展に貢献してまいります。



新生テクノス株式会社
代表取締役社長
森 厚人

社 是

安全最優先

企業理念

工事・保守を通じて、
日本の大動脈と社会の発展に貢献する

行動指針

1. 安全最優先で行動します
2. お客様のニーズに誠実に応えます
3. 知識と技術・技能の研鑽につとめます
4. よく考え、工夫し、行動に移します
5. 相互に連携し、一人ひとりが職責を果たします

営業拠点

新生テクノスは日本全国で事業展開中

本店／東京・名古屋
支店／東京(3箇所)・静岡・名古屋(3箇所)・大阪(2箇所)・福岡
支社／札幌・仙台・福島・新潟・静岡・広島・高松



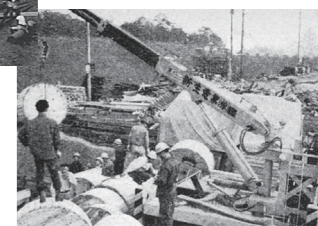
営業品目

1. 発電所、送電線路、配電線路、電車線路、電灯電力設備、信号保安設備、ホーム可動柵
2. 受変電設備、電力貯蔵設備、中央監視制御設備、幹線動力設備、電灯設備、トンネル照明設備
3. 自家発電設備、コジェネ設備、再生可能エネルギー(太陽光発電、バイオマス発電等)
4. 情報通信設備、映像・音響設備、無線通信設備、防犯設備、自火報・防排煙設備
5. 原子力発電設備、各種プラント設備、電気計装設備、空調設備、給排水設備
6. 各前号の設備における設計・施工・保守、調査・診断・技術提案等
7. 各前号の工事に関連する調査、診断、技術提案及びコンサルティング、並びにリニューアル設計・施工

- 1947年(昭和22年) 5月8日 **新生電業株式会社(以下新生電業)** 会社設立登記完了
商号：新生電業株式会社 本店：東京都台東区同朋町4番地
資本金：190,000円
- 1948年(昭和23年) 3月30日 臨時株主総会を丸ビル本店にて開催
11月10日 会社マークを制定
- 1949年(昭和24年) 10月21日 建設業法施行に伴いはじめて建設登録を受ける 建設大臣(イ)第556号
- 1952年(昭和27年) 6月1日 新生電業共済会創設、規約制定
- 1954年(昭和29年) 3月13日 本店を東京都千代田区大手町興農会館に移転
- 1957年(昭和32年) 11月18日 創立10周年式典を本店で開催し初の10年勤続表彰を行う
- 1960年(昭和35年) 4月27日 東宮御所新築電気設備工事施工において
建設大臣および宮内庁長官よりそれぞれ感謝状を受く
- 1976年(昭和51年) 11月26日 「塗装工事業」の許可取得
- 1981年(昭和56年) 7月10日 **電気整備工業株式会社(以下DSK)** 会社設立登記完了(登記事項)
商号：電気整備工業株式会社 本店：名古屋市中村区井深町
資本金：3,000万円
8月24日 DSK 愛知県知事から建設業許可取得(電気工事業及び電気通信工事業)
- 1982年(昭和57年) 8月9日 新生電業 本店を東京都港区芝公園秀和芝パークビルへ移転
2月19日 DSK 愛知県知事から建設業許可取得(消防設備工事業)
- 1989年(平成元年) 1月11日 DSK 商号を**ジェイアール東海電気工事株式会社(以下JRTE)**に変更登記
- 1995年(平成7年) 12月7日 新生電業 JRTEとの合併契約調印
12月7日 JRTE 新生電業との合併契約調印
- 1996年(平成8年) 4月1日 **新生テクノス株式会社**
両社の合併により"新生テクノス株式会社"発足
- 1999年(平成11年) 12月12日 大阪新幹線支店を大阪市北区豊崎へ移転
- 2000年(平成12年) 2月1日 本店(名古屋)および中部支店をJRセントラルタワーズ22階へ移転
- 2001年(平成13年) 10月15日 東京新幹線支店を東京都品川区東五反田へ移転
- 2004年(平成16年) 5月6日 名古屋新幹線支店を名古屋セントラルタワーズ22階へ移転
6月21日 東京支店を東京都港区東新橋へ移転
- 2005年(平成17年) 8月1日 東京新幹線支店を東京都港区港南JR東海品川ビルB棟5階へ移転
- 2006年(平成18年) 11月1日 新経営情報システム運用開始およびワークフローシステムを導入
- 2007年(平成19年) 4月1日 新生テクノス企業行動規範制定
- 2009年(平成21年) 12月28日 東京支店を東京都港区赤羽橋へ移転
- 2015年(平成27年) 5月7日 東京支店を東京都港区東新橋へ移転
- 2017年(平成29年) 5月8日 創立70周年記念を迎える
- 2018年(平成30年) 5月7日 本店をG-BASE田町16階・17階へ移転
- 2019年(平成31年) 4月1日 研修センター 新研修棟使用開始



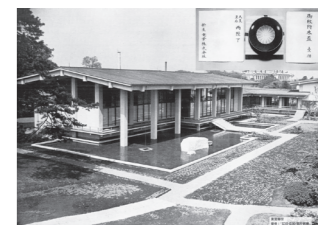
東海道本線草薙・静岡間電化柱建植



三宅ICケーブル搬入作業



東京駅に初乗り入れた0系新幹線



東宮御所新築電気設備工事施工



荻窪ステーションビル



本店が設けられた東京秀和芝パークビル



JRセントラルタワーズ



品川駅開業



創立70周年記念式典



リニア鉄道館



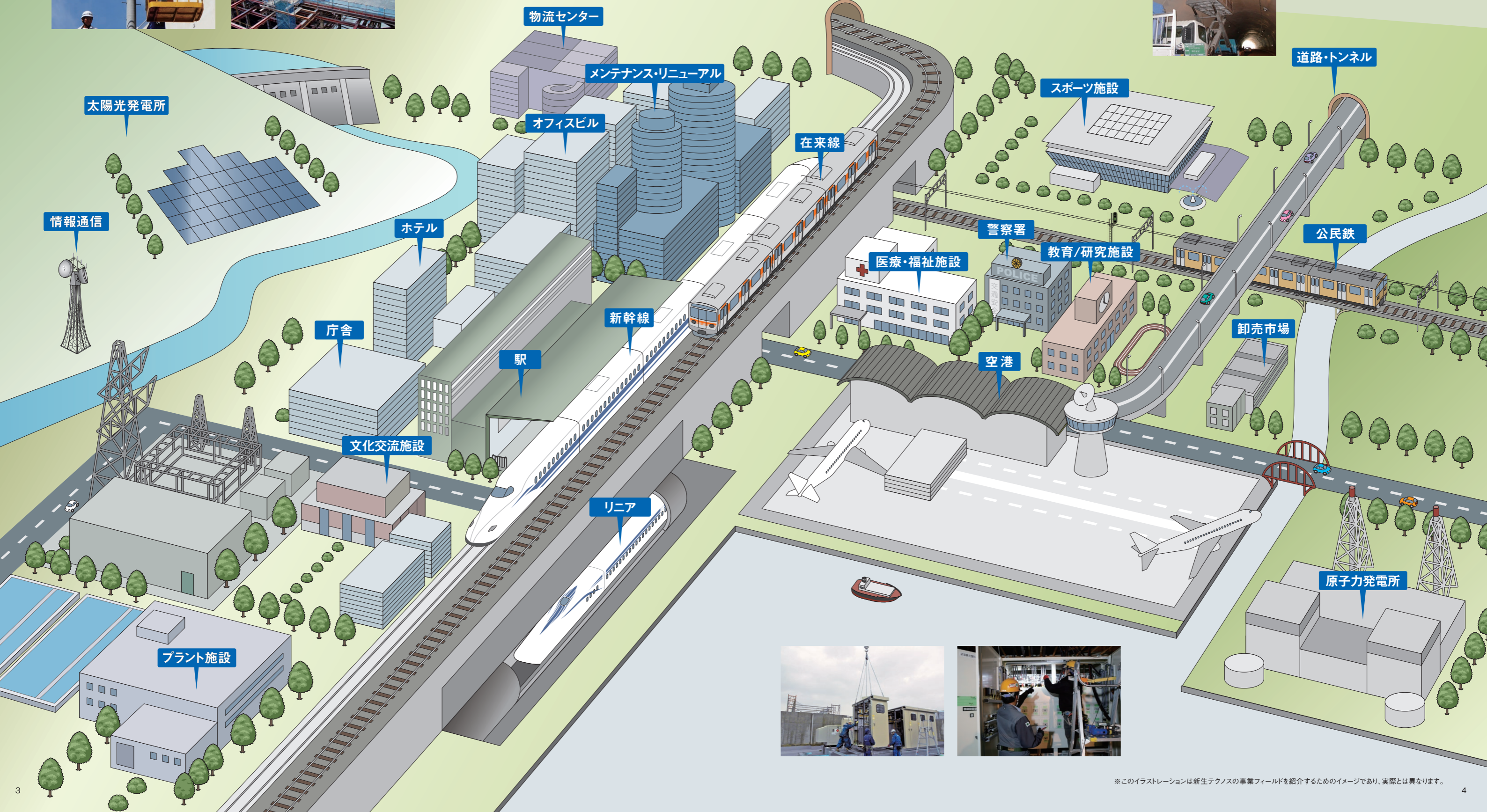
新研修棟



G-BASE田町

Business Field

新生テクノスは総合設備工事会社として、ビル建築、鉄道を始めとした交通インフラ、情報通信、再生可能エネルギーなどの分野において、次の時代に必要とされる社会インフラ整備のさらなる成長を支えています。



● 新築時から維持・改修まで建物の一生を一貫してサポートし、時代と共に移り変わる顧客ニーズに応えます。

設計積算 ▶▶▶ 施工管理 ▶▶▶ メンテナンス ▶▶▶ 診断分析 ▶▶▶ リニューアル ▶▶▶ ソリューション

設計積算
法令や顧客ニーズに基づきながら電気設備を設計し、また材料の種別数量を算出、必要な工事費の見積りを算出します。

施工管理
決められた工期内に安全最優先で建築現場をとりまとめ、様々な電気設備を構築、ビルや街を作り上げ社会に貢献します。

メンテナンス
停電・落雷などの災害に対して、防災設備が非常時に確実に動作するように維持管理を行い、性能や機能を常に保つ仕事です。

診断分析
時代と共に移りゆく社会的ニーズや、お客様個々のニーズに現状が対応しているか、定期的な診断を行います。

リニューアル
電気設備に求められる機能性能も絶えず進化します。初期性能を維持すると共に、付加価値の高いリニューアルを提案します。

ソリューション
省エネ・節電、停電対策、地震対策等…お客様からの疑問・要望等に対し、確かな実績と技術で応えます。



※このイラストレーションは新生テクノスの事業フィールドを紹介するためのイメージであり、実際とは異なります。

Business Overview

新生テクノスは、JR東海唯一の電気設備工事会社として、東海道新幹線、在来線に係る各種工事、保守を主体的に取り組むことで、日本の大動脈の安全・安定輸送に貢献してきました。

また、総合設備工事部門において、さまざまなビル・公共建築を構築してきており、これからも培われた技術力・施工力で盛んに工事施工を推進していきます。



西相模FC電力設備新設



宇都宮 LRT 電車線路設備新設工事



きゅりあん 品川区立総合区民会館



誓因神社



豊州市場水産卸売場棟

鉄道設備工事 施工事例

人々の生活や社会の発展に大きく貢献する鉄道システム。新生テクノスは東海道新幹線をはじめ、JR東海やJR九州の在来線、地下鉄、私鉄などの電気設備工事の施工・保守を通じて、鉄道の安全・安定輸送、旅客サービスを電気設備の面から支えています。また、東北、北陸、九州新幹線や地下鉄などの新線建設工事にも従事して来ました。これまで培われた高い技術力と豊富な経験に基づく施工力で、日本の鉄道インフラの構築、安全・安定輸送に貢献します。



武豊線半田高架化 電車線設備改良



名古屋駅ホーム可動柵搬入



受変電設備



中央監視設備



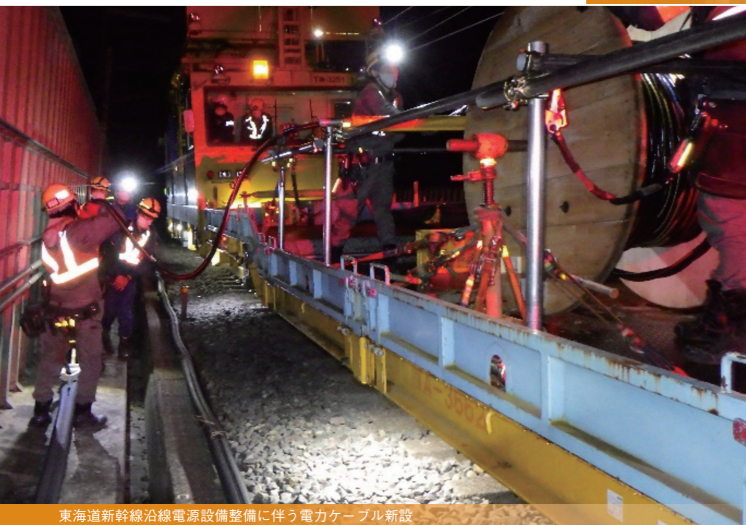
プラント設備



JRセントラルタワーズ / JRゲートタワー

総合設備工事 施工事例

建築物が大型化するなか、JV（ジョイントベンチャー）工事にも盛んに取り組み、一部はJVスポンサーとして工事全体を管理しています。LED照明が広く普及し、省エネ性や操作性が格段に向上、地球温暖化防止対策に貢献しています。また東日本大震災を経験し、防災設備・自家発電設備・蓄電池設備に対する要求仕様が変わり、エネルギー確保と供給の考え方が高度化しました。新生テクノスは長年培われた技術力・施工力で、これからも日本の未来ある街づくりに貢献します。



東海道新幹線沿線電源設備整備に伴う電力ケーブル新設



東海道新幹線 ATC 地上装置新設



那須塩原青木太陽光発電所



東京国際空港

写真提供：東京国際空港ターミナル

安全への取り組み

Commitment to Safety

当社では、「安全」は『会社経営上の最重要課題』として、「安全最優先」を社是として掲げて、社員、協力会社の一人ひとりが安全を第一に、謙虚に考え、真摯に行動することを目指しています。

安全推進体制

当社の安全推進体制は、本店、支店、営業所、協力会社（協力会社から更に二次、三次の下請会社へ）で構成しています。本店の安全推進委員会（鉄道部門、一般部門別）では、社長を委員長として直近の事故に関する原因分析などを通じて会社としての対策を決定し、出席した支店長や支店安全管理部長等が支店の安全推進委員会で周知、支店内へ展開しています。そして、これを受けて営業所が主催する安全対策実行委員会では、営業所所員が自らの作業に置き換えたリスクを検討し、具体的な対策や行動目標について議論しています。なお、事故発生時には速やかに社内ポータルへの情報掲載や協力会社への展開を実施しており、重大な事故発生時には緊急事故防止会議を開催して緊急対策の指示・周知をしています。また、協力会社主催の事故防止会議にも出席し、事象の解説や対策の実行に関する指導・助言などを行うとともに、こうした場で受けた意見や提案などは、社内への展開や作業の改善などにつなげています。



2024年度大阪新幹線支店 安全大会(2024.7.12開催)

主な取り組み事例

安全への取り組みを補完するツール

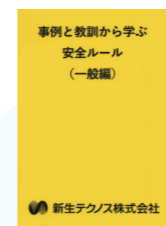
日頃の事故防止教育や作業前の指示事項周知のためのツールとして、鉄道工事関係では「安全ルールブック」と「基本動作ブック」、一般工事関係では「事例と教訓から学ぶ安全ルール」を活用しています。



安全ルールブック



基本動作ブック



事例と教訓から学ぶ安全ルール

安全に施工するための取り組み

事故や災害の発生リスクを事前に排除・低減し、施工の「安全性」を向上させるための取り組みの一環として「安全施工検討会」を開催しています。これには協力会社の責任者クラスや安全担当者も出席し、作業環境や過去の事故防止対策などを確認しながら施工方法、手順、段取り、材料・重機・工具の選定などについて具体的に検討した結果を「安全施工計画書」へ反映することにより事故防止のためのチェックポイントを明確にしています。



安全施工検討会

各種事故防止教育

安全に関する意識付けや過去の事故防止対策の周知・確認などを役割別（工事指揮者、作業責任者、作業員等）に実施する机上教育と、実際の作業を想定した各種訓練会（基本動作訓練、感電災害防止訓練、墜転落災害防止訓練、触車事故防止訓練など）を各支店単位で定期的に行っています。



感電災害防止訓練



触車事故防止訓練

技術力向上の取り組み

Commitment to Improvement of Technology

充実した教育・研修体制で社員一人ひとりの成長をバックアップ。教育・研修の場である研修センターでは、技術力向上や資格取得のための研修が行われています。また日々の仕事を見つめ、業務の効率化や安全性の向上を模索、技術開発へと発展させています。

社員教育

電設業界において、個々の社員の技術力向上は不可欠です。継続的に技術・技能、統率力、規律、原価意識を兼ね備えた人材を育成し、階層ごとの教育や専門教育を行うことにより、幅広い知識を備えた人材を育成しています。

階層別教育

- 新入社員教育
- 新入社員フォローアップ教育
- 若手社員教育
- 中堅社員教育
- 早期管理職候補者教育
- 管理職教育

部門別教育

- 事務部門教育
- 営業部門教育
- 鉄道工事部門教育
- 一般工事部門教育
- プラント工事部門教育

資格取得教育・奨励

- 第一種電気工事士
- 1級電気工事施工管理技士
- 1級電気通信工事施工管理技士
- 第三種電気主任技術者
- 消防設備士甲種第4類
- 工事担任者
- 1級管工事施工管理技士
- 2級計装士
- 第2種放射線取扱主任者
- 技術士補
- ビジネス実務法務検定3級
- 2級建設業経理士
- 日商簿記2級
- 第一種衛生管理者

専門教育

- 安全教育
- OJTリーダー研修
- 人事考課者研修

OJT教育

- 玉掛け
- 第3級陸上特殊無線技士
- 列車見張員
- 小型移動式クレーン (1t以上5t未満)
- 危険物取扱者
- 工事技能者(幹・在)
- 検修技能者(幹・在)
- 停電工事責任者(幹)
- 保守用車運転者
- 配線技能者
- 通信ケーブル接続



研修棟(2019年4月開所)



訓練棟

業務効率化への取り組み／電設工業展への出展

当社は、日々の現場作業を効率化、安全推進させるために、業務改善や技術開発を行っています。年1回「全国業務研究発表会」を開催し、各支店部署から、選りすぐりの改善提案を募り、業務効率化・原価低減・安全推進に繋げています。また優れた改善提案の中から技術開発へと繋ぎ、以下の商材を開発・販売しています。

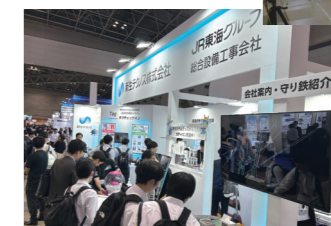
取扱販売品目

- レーザー式架線測定器「電車線チェックマン」
 - RFIDタグ持出返却管理/持込工具管理/工具現地確認システム「タグチェックマン」®
 - FTB端子短絡防止「M6用端子キャップ」
 - トランス端子保護カバー
- 2024年7月現在



業務研究発表会風景

当社としては、これらを電設業界の最たる展示会である「JECA FAIR」(電設工業展)に出展し、当社の技術力・提案力を提示すると共に、更なる業務改善、現場での応用力に磨きを掛けています。



2024 JECA FAIR 出展風景

For the Future

新生テクノスは、山梨リニア実験線の建設において、電力設備や信号通信設備、無線設備などの新設、保守、改修工事を行って来ました。
これからもJR東海グループの一員として、今までの経験を活かし、中央新幹線建設に主体的に取り組んでいきます。



©Central Japan Railway Company All rights reserved.



電気の流れをつくり、さらにより良い仕組みを構築していく。
新生テクノスは、電気設備工事という仕事を通じ、
社会、暮らしを支える一員としてその役割を果たし続けます。
私たちが目指す「明日」。

安全・安心・信頼 そして未来へ
新生テクノス株式会社

